

放射線における意識調査

金子幸久

南松山病院 放射線部

【背景・目的】

現在放射線は私たちに身近な医療から工業や農業、原子力まで幅広い分野で使用されており密接に関与している。その放射線についてメディア等で多大な量の情報が流れ人々の目に飛び込んでくるが、過剰な反応をされたり、間違って認識されたりしているものも少なくない。

まず私たち診療放射線技師ひとりひとりができることはそのような放射線に不安や恐怖をもっている人の話に耳を傾け、それに対して不安や恐怖を和らげてあげることができる説明をすることではないかと考える。

管理士部会発足時の部会および放射線技師に求められるものを把握することを目的とする。そのための方法としてアンケートを実施した。その調査結果をもとに今後の活動にいかしていく。

【方法】

データの収集は質問法における面接調査と留置調査の2通りの手法を用いておこなった。

- ・アンケート1：面接調査
- ・アンケート2：留置調査

面接調査：被験者と直接対面、会話する手法

留置調査：あらかじめアンケート用紙を回答者に配布しておき、後で回収する手法

面接調査と留置調査を行なった理由についてはどちらも収集データ量の多い手法であるということ。面接調査や留置調査の互いの短所を補うために2つの手法を用いることとなった。

アンケート1の面接調査において医療従事者43名、病院に関与している者17名、合計60名のアンケートを実施し、アンケート2の留置調査においては医療従事者94名のアンケートを実施し検討した。

【考察・まとめ】

当然のことではあるが放射線に対しての間違った認識が多かったりしたのが、印象的であった。放射線について過激にメディアで報道されたことにより選択的注意を促され、即座に選択的歪曲、選択的動機に結びついたものも多いと考える。

健康や安全性と言われるものはニーズの緊急度が高く少ない情報でもすぐに動機へと変わる。このため定期的な被ばくに関した情報を分かりやすく正確に必要なものを提供する必要がある。

患者への不安を和らげたいと思うのは医療従事者が思うところで簡単な質問には答えたい等の意見も多かった結果があり、放射線に対しての知識を共有することが必要とされていると考える。